

連結決算補足説明資料

2022年3月期 第1四半期

(2021年4月1日～2021年6月30日)

2021年7月30日

(証券コード：9640)

株式会社 セゾン情報システムズ

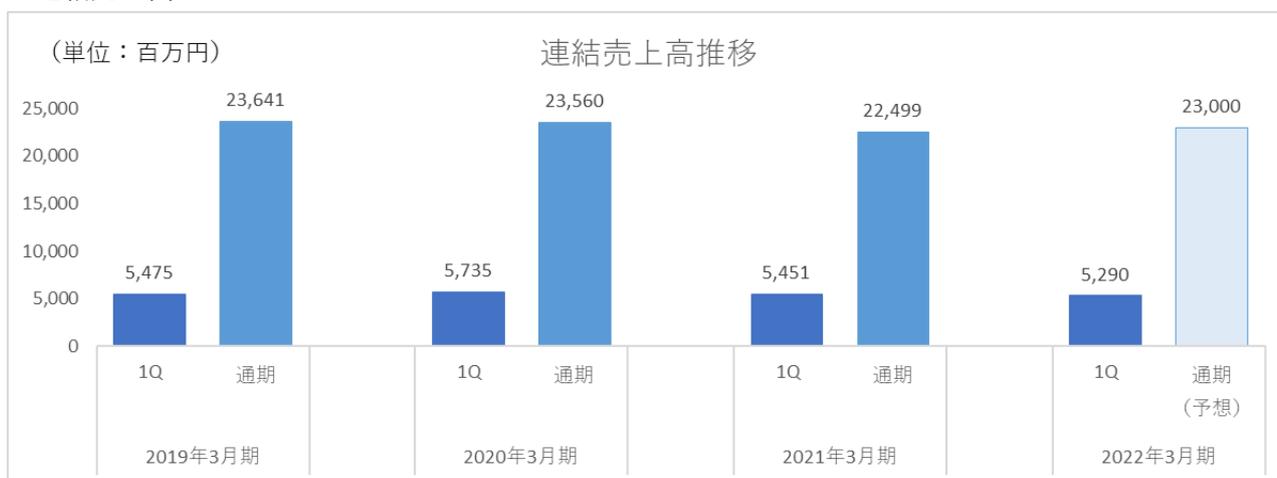
目次

1. 連結売上高・連結営業利益の推移
2. 連結売上高・連結営業利益の事業セグメント別増減
3. 事業セグメント別の損益状況
 - ① HULFT 事業
 - ② リンケージ事業
 - ③ 流通 IT サービス事業
 - ④ フィナンシャル IT サービス事業
4. 事業セグメント別の売上高ストック・フロー比率
5. トピックス

(注) この資料に記載されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

1. 連結売上高・連結営業利益の推移

■連結売上高



<当第1四半期連結累計期間>

当社は、ビジョン『「カテゴリートップの具現！」～特定分野において、ダントツの存在感を発揮する～』のもと、事業モデル変革に取り組んでおります。当第1四半期連結累計期間は、「HULFT Square」の開発にリソースを引き続き集中し、またマーケティング活動を開始しました。

売上高は、通期計画値（23,000百万円）に対して、進捗率23.0%となり、堅調に推移しました。

<2021年3月期（通期）>

- 成長の主軸に位置付けておりますリンケージサービスが進展。一方、流通ITサービス事業及びフィナンシャルITサービス事業の既存領域におけるシステム開発・運用案件は減少（前年同期比1,061百万円減）

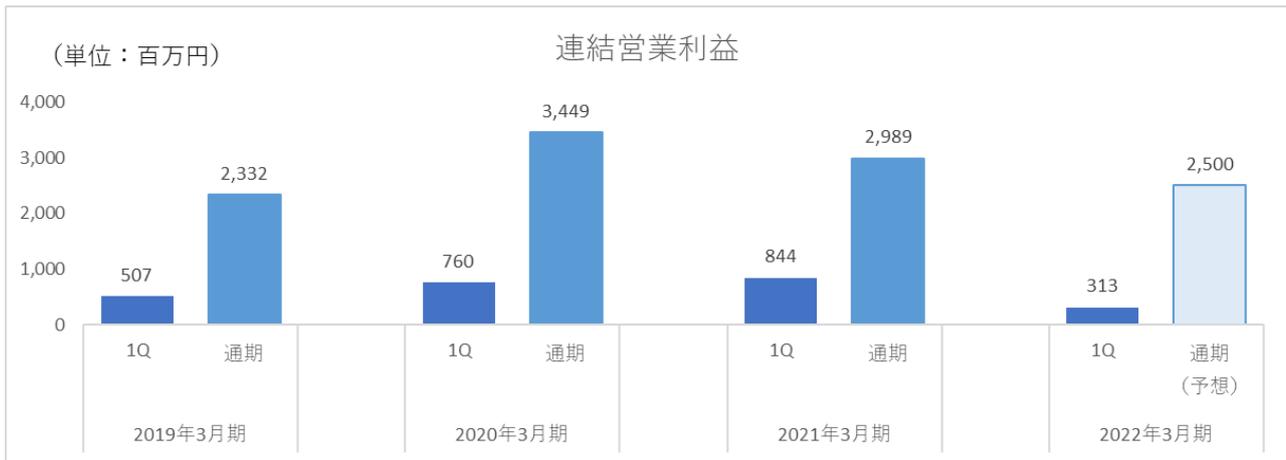
<2020年3月期（通期）>

- Fintechプラットフォーム事業（現フィナンシャルITサービス事業）の既存領域におけるシステム開発案件が減少する（前年同期比1,397百万円減）も、HULFT事業ライセンス販売好調（前年同期比917百万円増）
- リンケージビジネスが事業の柱に成長
- 子会社株式会社アプレッソを2019年4月1日付で吸収合併（⇒適時開示、2019年1月30日）

<2019年3月期（通期）>

- 新技術・新領域へ事業展開の取組みを強化
- 流通ITサービス事業においてデータ連携サービスが順調に増加（前年同期比45百万円増）
- HULFT事業ライセンス販売が大幅に増加、月額サービス利用やサポート売上も好調で過去最高売上高を達成（前年同期比321百万円増）

■連結営業利益



<当第1四半期連結累計期間>

連結営業利益は、前年同期比売上総利益率を1.8ポイント改善する等経営の効率化を進めたものの、「HULFT Square」等の新たなサービス構築に係る研究開発費等が増加したことにより、通期計画(2,500百万円)に対して進捗率12.5%となりました。

<2021年3月期(通期)>

- リモートワークの拡大、イベント・商談のオンライン化等による生産性向上の取組みが奏功したものの、「HULFT Square」に関わる研究開発費が増加(前年同期比460百万円減)

<2020年3月期(通期)>

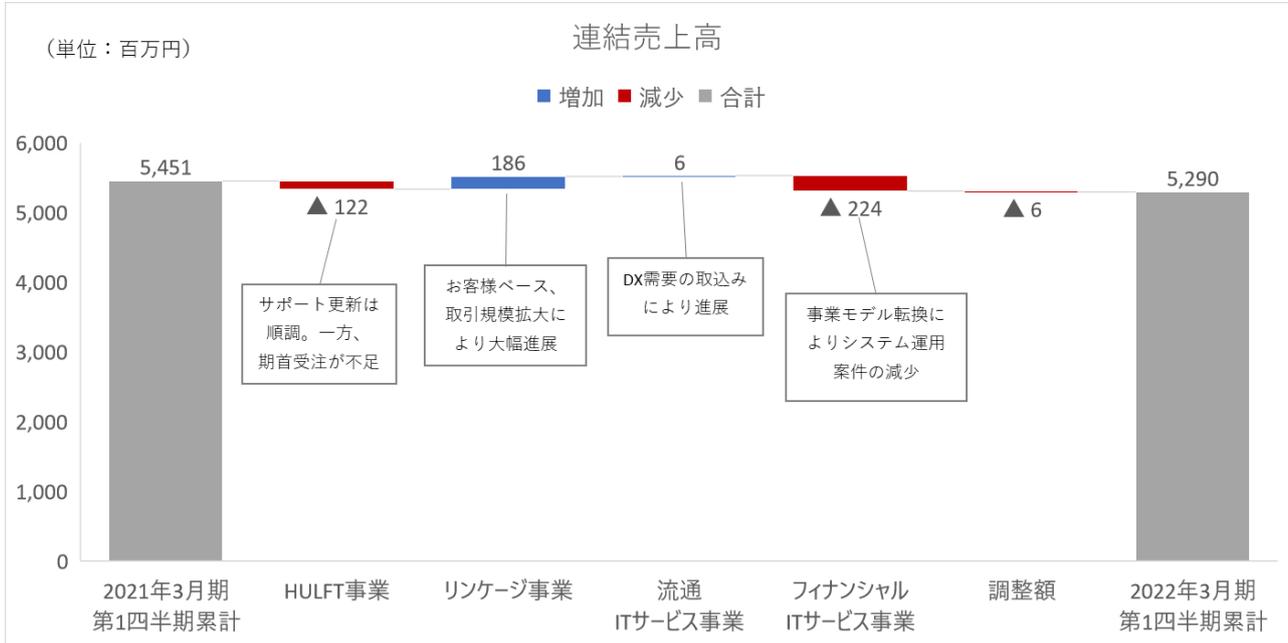
- 売上高が前年並みであった一方で、営業利益は増加(前年同期比1,116百万円増)
- 流通ITサービス事業において、既存領域の消費税増税対応案件が一時的に増加したこと等による利益増加(前年同期比262百万円増)
- HULFT事業においてライセンス販売が好調であったことに伴い利益増加(前年同期比798百万円増)

<2019年3月期(通期)>

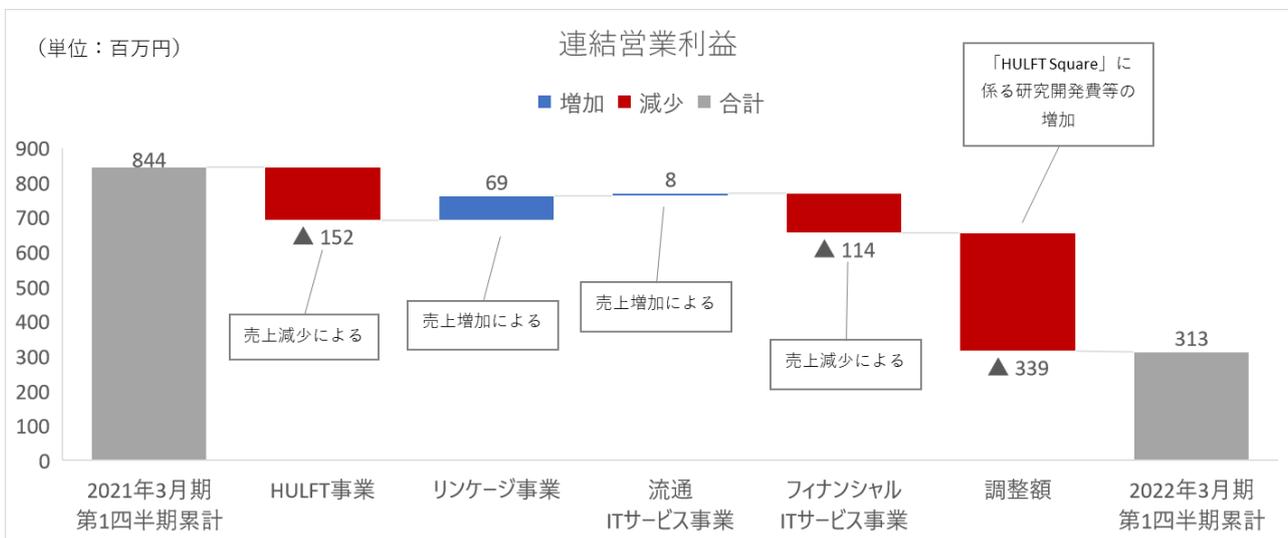
- 売上高同様、前連結会計年度に大型システム開発案件が完了したことによる利益減少したものの計画値は達成
- HULFT事業においてライセンス販売が大幅に増加、月額サービス利用やサポート売上も好調であったことに伴い利益増加(前年同期比426百万円増)

2. 連結売上高・連結営業利益の事業セグメント別増減

■連結売上高



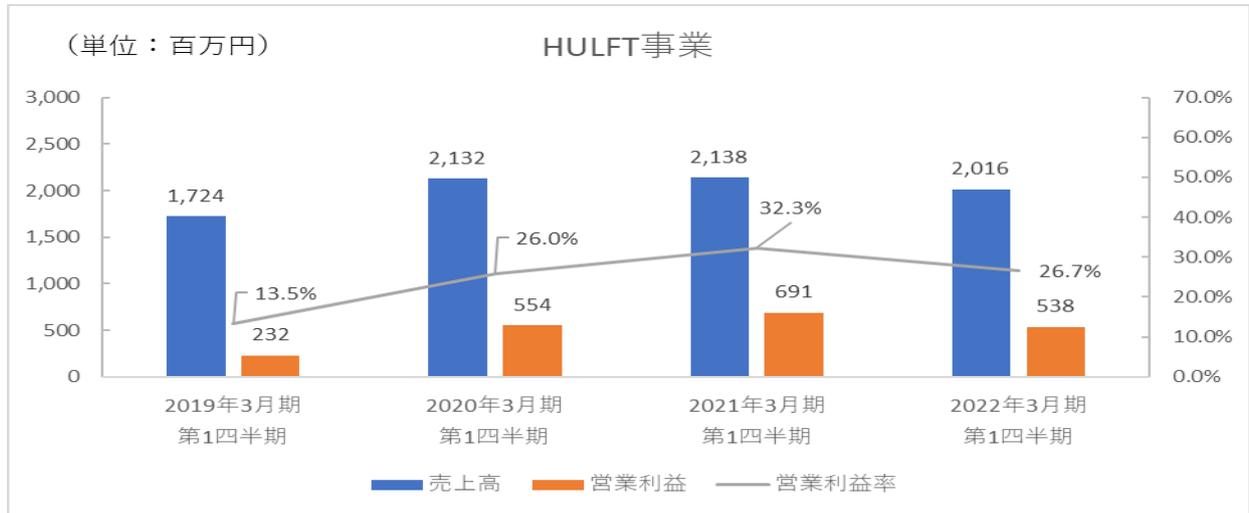
■連結営業利益



※連結営業利益における調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、報告セグメントに帰属しない「HULF Square」に係る研究開発費等であります。

3. 事業セグメント別の損益状況

① HULFT 事業



<当第1四半期連結累計期間>

- 昨年受注した「HULFT」「DataSpider」等のサポートサービスの更新が順調に推移し、ストック比率を前年同期比 1.5 ポイント増としたものの、前年同期のような大型の期首受注がなかったこと等により売上高減少（前年同期比 122 百万円減）
- 売上高の減少に伴い営業利益減少（前年同期比 152 百万円減）

<2021年3月期第1四半期>

- 「HULFT」「DataSpider」等のライセンス販売が鈍ったものの保守・サービス販売が増加したことにより売上高増加（前年同期比 6 百万円増）
- イベント・商談のオンライン化、営業活動品質・生産性向上等に伴う販売費及び一般管理費の減少等により営業利益増加（前年同期比 137 百万円増）

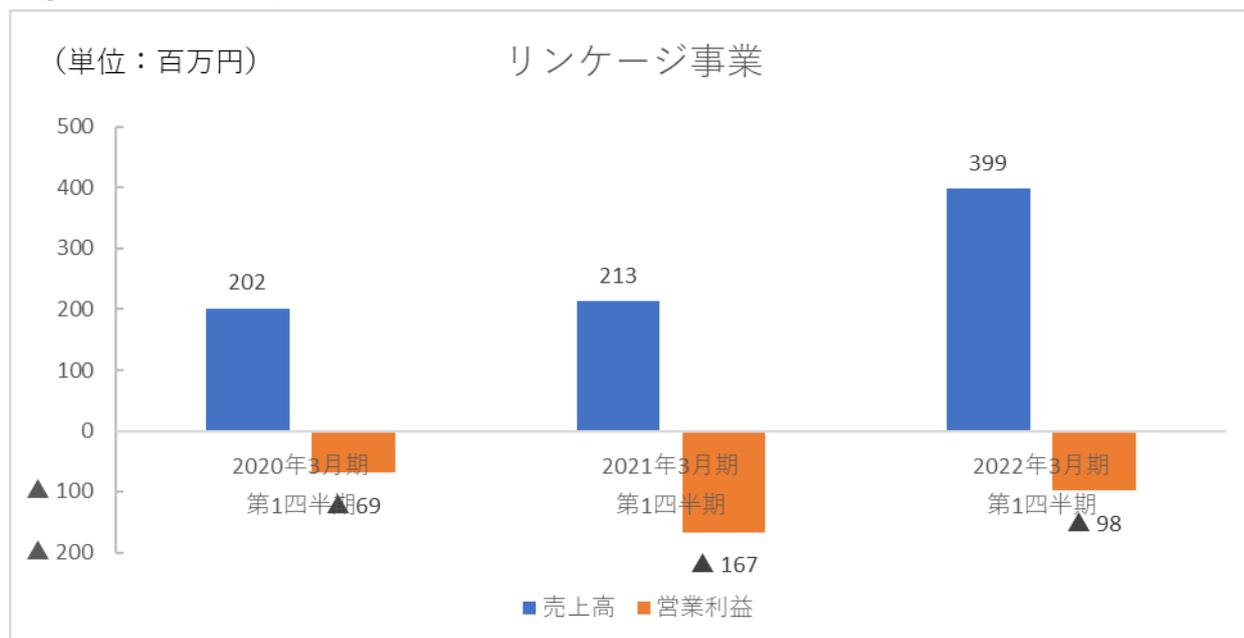
<2020年3月期第1四半期>

- 「HULFT」「DataSpider」等のライセンス販売が大幅に増加したこと、クラウド型のサブスクリプションサービスやサポートサービスが拡大したことにより売上高増加（前年同期比 408 百万円増）
- 売上高の増加に伴い営業利益増加（前年同期比 322 百万円増）

<2019年3月期第1四半期>

- 「HULFT」「DataSpider」等の月額利用サービス販売が拡大した一方で、ライセンス売上が減少したことによる売上高やや減少（前年同期比 29 百万円減）
- さらなる事業拡大を図るため、製品開発体制の再構築、グローバル展開強化、次世代戦略製品の研究開発及び人材育成等へ事業投資を積極的に実施したことによる利益減少（前年同期比 33 百万円減）

② リンケージ事業



流通 IT サービス事業の一部としてサービス提供をしておりましたリンケージビジネスは、今後の更なる事業拡大を目指し、2021年3月期から「リンケージ事業」として分離独立しています。

2020年3月期以前につきましては、数値の把握が困難なため記載しておりません。

<当第1四半期連結累計期間>

- モダンマネジメントサービス及びモダンファイナンスサービスを中心にお客様ベース・取引規模ともに拡大して大幅に進展したこと等により売上高増加（前年同期比 186 百万円増）
- リンケージサービス拡大を目指し、人員増加に伴うコストが増加したことにより 98 百万円の営業損失（前年同期は 167 百万円の営業損失）

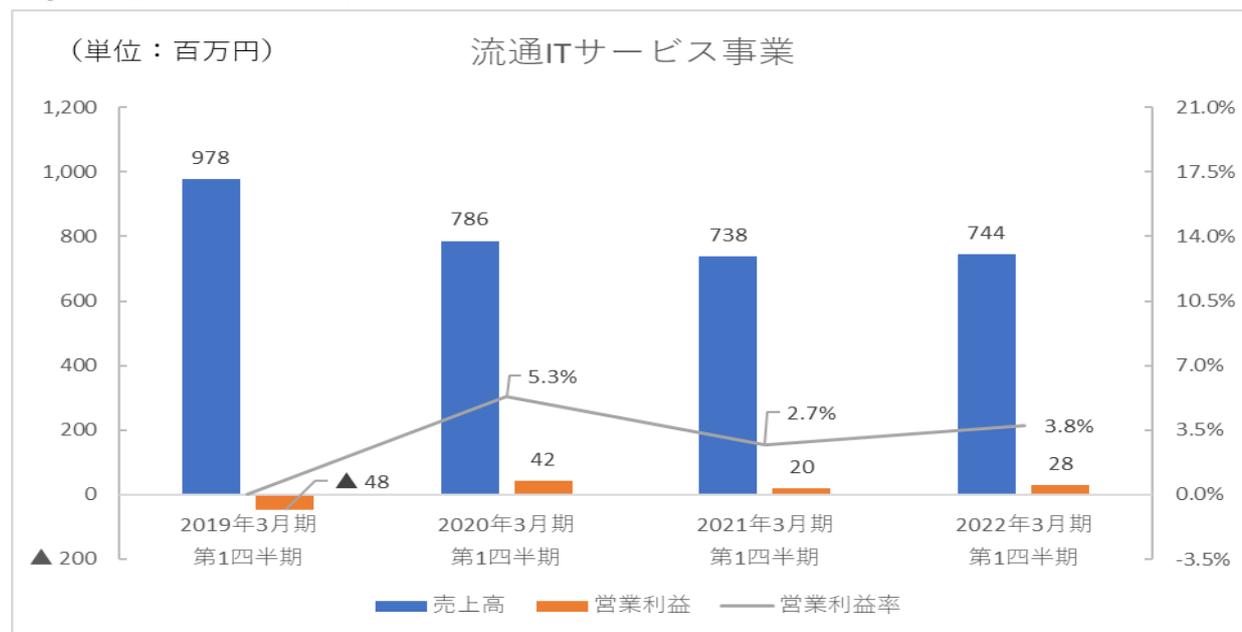
<2021年3月期第1四半期>

- モダンマネジメントサービスをはじめとするデータ連携サービスが増加したこと等により売上高増加（前年同期比 11 百万円増）
- リンケージサービス拡大を目指し、人員増加に伴うコストが増加したことにより 167 百万円の営業損失（前年同期は 69 百万円の営業損失）

<2020年3月期第1四半期>

- リンケージサービス案件が順調に増加
- リンケージサービス拡大を目指し、人員増加に伴うコストが増加したため営業損失となっております。

③ 流通 IT サービス事業



※2021年3月期から流通ITサービス事業はリンクージビジネスを分離独立しています。2020年3月期以降は、リンクージビジネスを分離させた調整後の数値です。

<当第1四半期連結累計期間>

- 一部のお客様において新型コロナウイルス感染症拡大によるIT投資抑制等の影響はありましたが、一方でこの機に積極的にDXを進めるお客様もあり、売上高増加（前年同期比6百万円増）
- 売上高の増加に伴い営業利益増加（前年同期比8百万円増）

<2021年3月期第1四半期（流通ITサービス事業）>

- 既存領域におけるシステム開発案件が減少したこと等により売上高減少（前年同期比48百万円減）
- 売上高の減少に伴い営業利益減少（前年同期比22百万円減）

<2020年3月期第1四半期（流通ITサービス事業）>

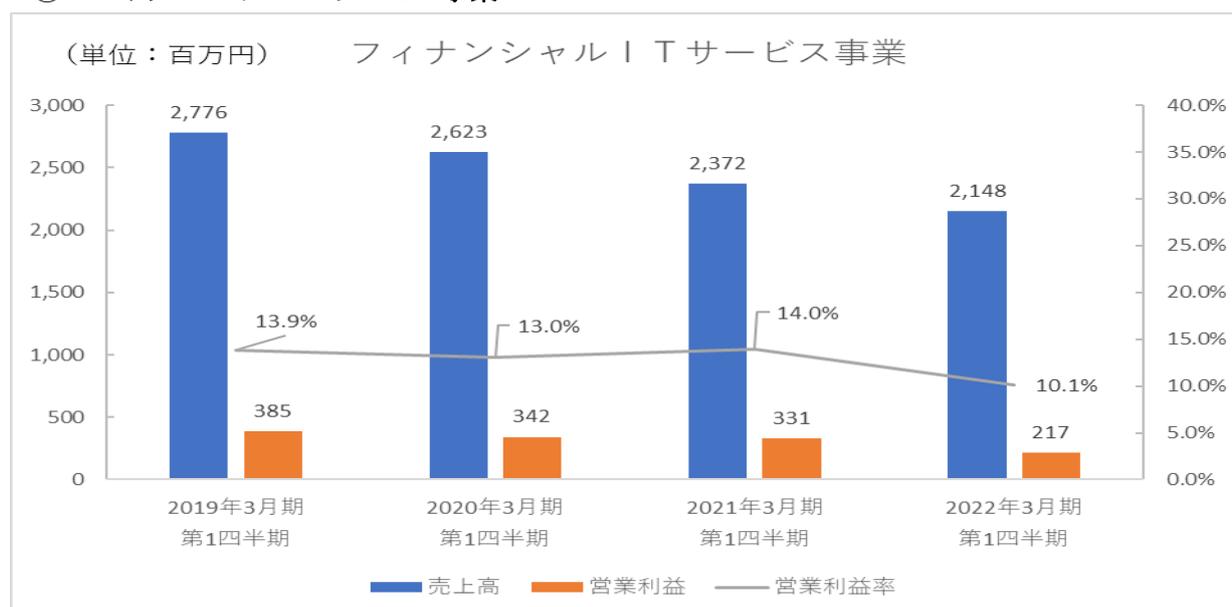
- 事業モデル転換が進み既存領域の案件が減少したことによる売上高減少（前年同期比192百万円減）
- 強みを活かせる案件へ限定したことにより利益率が向上（前年同期比90百万円）

<2019年3月期第1四半期（流通ITサービス事業）>

- システム開発中心からサービス提供中心へ事業モデル変革を目指し、システム開発案件を当社の強みを活かせる案件へ限定したことによる売上高減少（前年同期比87百万円減）

(注) 2018年4月1日付で「流通・ITソリューション事業」を「流通ITサービス事業」に名称変更しています。

④ フィナンシャル IT サービス事業



※2020年4月1日付で、Fintechプラットフォーム事業からフィナンシャルITサービス事業へ名称変更しております。

<当第1四半期連結累計期間>

- パブリッククラウド化へのインフラ環境構築等の新規サービス提供が進展した一方、既存領域におけるシステム運用案件の減少等に伴い売上高減少（前年同期比 224 百万円減）
- 売上高の減少に伴い営業利益減少（前年同期比 114 百万円減）

<2021年3月期第1四半期（フィナンシャルITサービス事業）>

- パブリッククラウド化へのインフラ環境構築等の新規サービス提供が進展したものの、既存領域における情報処理サービス案件の減少等したことにより売上高減少（前年同期比 251 百万円減）
- 売上高の減少に伴い営業利益減少（前年同期比 11 百万円減）

<2020年3月期第1四半期（Fintechプラットフォーム事業）>

- 既存領域におけるシステム開発案件が減少したこと等により売上減少（前年同期比 153 百万円減）
- 売上高の減少に伴い営業利益減少（前年同期比 43 百万円減）

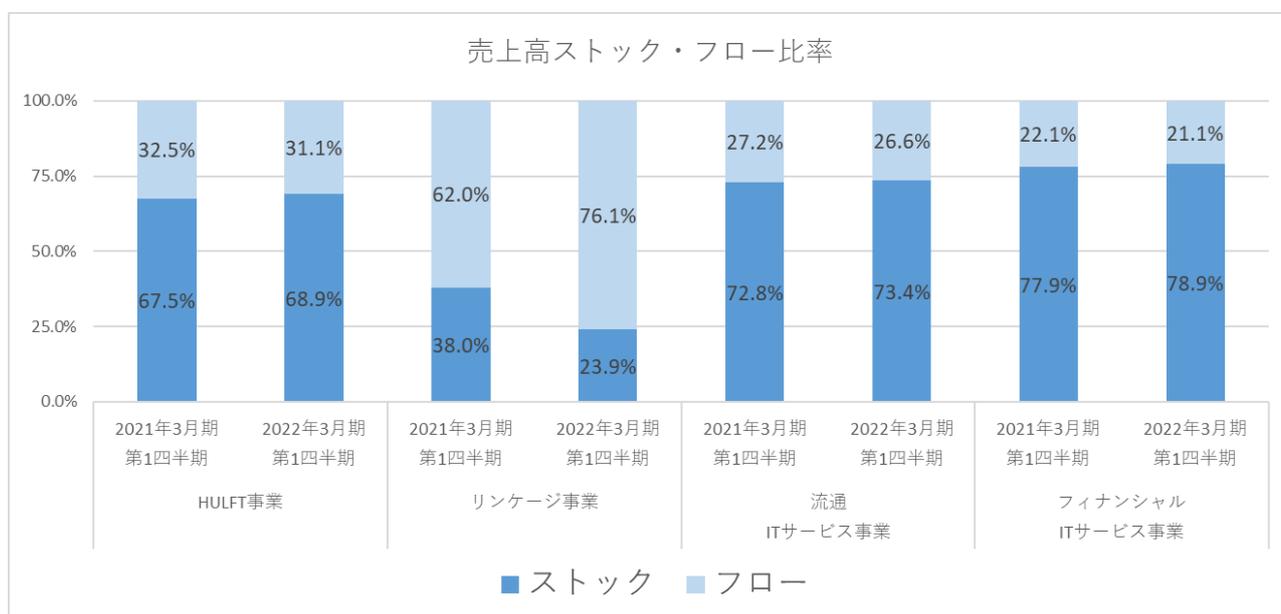
<2019年3月期第1四半期（Fintechプラットフォーム事業）>

- 大型システム開発が完了したこと等により売上減少（前年同期比 1,208 百万円減）
- 大型システム開発に伴う売上減少及び一時的な高利益率状態の解消により営業利益減少（前年同期比 541 百万円減）
- （注）2018年4月1日付で「カードシステム事業」を「Fintechプラットフォーム事業」に名称変更しています。

4. 事業セグメント別の売上高ストック・フロー比率

当社は、ビジョン『「カテゴリートップの具現！」～特定分野において、ダントツの存在感を発揮する～』のもと、2024年のありたい姿として「データエンジニアリングカンパニー」を掲げております。データエンジニアリングカンパニーを表す一つの形として、提供するサービスは全て「as a Service」化を目指しており、その実現に向けて、現在研究開発を進めている「HULFT Square」等のサービス提供を中心としたストック型ビジネスの拡大に取り組んでおります。

以下は、セグメント別売上高ストック・フロー比率を当第1四半期連結累計期間と前年同期で比較したデータです。



トピックス

■ニュースリリース一覧（期間：2021年4月1日～2021年6月30日）

エストニア共和国統計局、「HULFT Integrate」を採用

⇒この度、当社の米国子会社であるHULFT, Inc. は、エストニア共和国統計局様が「HULFT Integrate」を採用したことを発表いたしました。当社グループは、国内外でのHULFT製品群を活用したデータ連携サービス等のさらなる事業拡大に努めております。

※「HULFT Integrate」は、数百の多様なアダプターを介して互換性を高め、安全なデータ転送を可能とするノーコードのデータ連携アーキテクチャです。

鎌倉市の「スクールラボファンド」に社会貢献活動の一環として寄付

⇒当社は、鎌倉スクールラボファンドの目指す方針に賛同し、社会貢献活動の一環として寄付しました。当社は、今後も安全で効果的な教育データの分析やリアルな課題に基づくプログラミング学習といった分野において貢献出来ることがあれば、積極的に支援を行ってまいります。



左) 鎌倉市長 松尾 崇（まつお たかし）

中) 株式会社セゾン情報システムズ 代表取締役社長 内田 和弘（うちだ かずひろ）

右) 鎌倉市 教育委員会 教育長 岩岡 寛人（いわおか ひろと）

2021 APN AWS Top Engineers に、当社の小杉隼人が選出

⇒アマゾンウェブサービス（AWS）における高度な技術力でお客様に貢献したエンジニアに与えられる「2021 APN AWS Top Engineers」に、当社の小杉 隼人が選出されました。なお、APN AWS Top Engineers の受賞は3年連続となります。

次世代クラウド型データ連携プラットフォーム『HULFT Square』を発表

⇒HULFT Square は基幹・業務システム上の様々なデータやシステムと、SaaS、アプリケーションなどを連携させる次世代クラウド型データ連携プラットフォームです。SaaS から SaaS、SaaS とオンプレミス、SaaS と外部システムの間で、データを安全そして自由にやり取り可能。お客様は業種、業界を越えて、社内・社外のシステム、データを連携できるため、組織や業態の変革を促す DX を実現します。

▼2021年6月23日記者説明会



▲キャンペーンサイトを公開

https://www.hulft.com/hulft_square/

<お問い合わせ先>

株式会社セゾン情報システムズ

経営企画室 IR 担当

Tel : 03-6370-2930

URL : <https://home.saison.co.jp/>